地域と共に学び，人のために動ける子供の育成

～ボランティア・防災活動を通したきずなづくり～

新城市立千郷中学校
＜連携校：千郷小学校＞

１　実践のねらい

(1)　これまでのあゆみ

ア　東北交流とボランティア推進

本校は東日本大震災が起きた 2011 年より被災地の中学校（岩手県）と交流している。交流や震災学習を通して「助けられるのではなく，助ける側にならなければならない」という意識が芽生えてきた。また，被災地にメッセージを送る活動や地域の「復興市」のボランティアスタッフに自主的に参加する生徒が増えてきた。

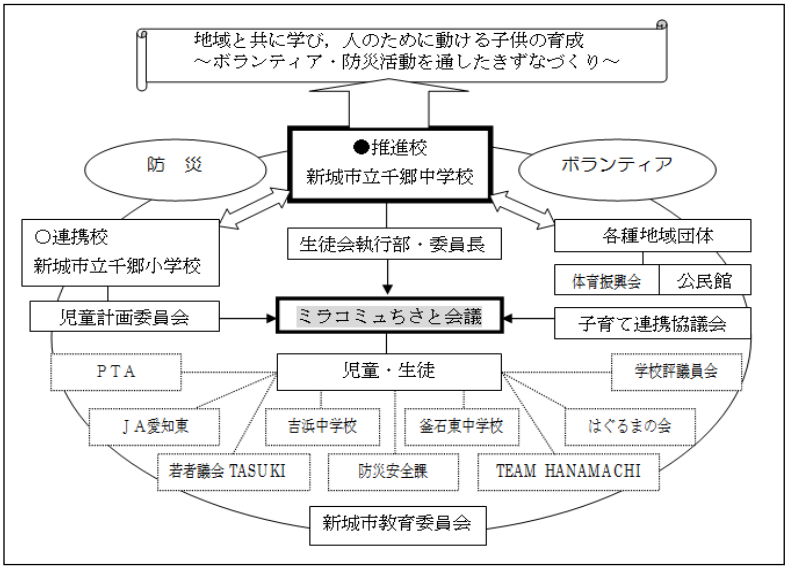
イ　地域の中での生徒会活動，小中連携

本校では操法訓練と市の出初め式参加(防災委員会),デイサービスセンター交流訪問(ＪＲＣ委員会)，交通安全週間の交通立ち番（生活委員会）等，伝統的・継続的に学校外での活動に取り組んでいる。また，年１回の小中合同下校訓練も行っている。これらを土台にして，更に有意義な活動を展開し，小中学生の力で地域を元気にしたい。

(2)　実践のねらいとテーマ

小学生と中学生が地域の大人と協働して地域の活動に取り組むことで，三者のきずなを深め，豊かな心を育み，地域の活性化を図ることができると考えた。

そこで「地域と共に学び，人のために動ける子供の育成～ボランティア・防災活動を通したきずなづくり～」をテーマに設定し，右のような研究体制を敷いて実践に臨んだ。



【研究体制】

２　実践

(1)　第１回ミラクルコミュニティちさと会議（2016. 6. 15）

「ちさと校区を元気にするために」というテーマで中学生（委員長）が４つの提案をした後にグループ協議で意見交換を行い，よりよい活動のための改善点や問題点を明らかにした。その後の各グループからの報告と全体協議では，実現に向けてのアイデアを共通理解し，今後の動きを確認することができた。

＜出席者＞合計３５名

千郷中学校	生徒会長　副会長
	委員長（ＪＲＣ　体育　環境　防災）
千郷小学校	児童計画委員（５年生　６年生）
千郷校区	代表区長　副区長　体育振興会会長
	千郷中学校評議員
	千郷小・中学校ＰＴＡ会長

【グループ討議の様子】

【会議後の感想】（抜粋） たくさんのアイデアや思いが小中学生の皆さんの中にあること，それを論理的に表せることに驚きました。この会議をメジャーなものにして，もっと発言力のある場にしていけば，とても面白いことになると思いました。　（小学校ＰＴＡ会長）	小学生がたくさん提案してくれて，「中学生と一緒に」「地域の方と一緒に」という内容でアイデアを出してくれました。中学生の私たちからは見られない目線からの意見で，何度も「なるほどなあ」と思いました。地域の方は，具体的に意見や問題点，アドバイスを出してくださいました。 （中学３年生　女子）

(2)　「奇跡のひまわり」を広げよう（防災意識を高める）

【絵本「はるかのひまわり」】

阪神淡路大震災の記憶を伝える「奇跡のひまわり」の種が東北の交流校から届き，本校では毎年「奇跡のひまわり」を栽培している。このひまわりの由来と被災地の出来事を知るとともに，防災意識を高めるために，以下の取組を行った。

①　中学生による，震災を伝える絵本の読み聞かせ
②　生徒が自宅でひまわりを育てる「ひまわりのわ」運動
③　高校園芸科やＪＡと連携した「奇跡のひまわりプロジェクト」

①では，中学生が阪神淡路大震災と東日本大震災を伝える二つの絵本の読み聞かせを連携小学校にて行った。「読み聞かせボランティア求人票」に集まった約４０名の生徒が３週にわたり全クラスで行った。③では，市内各所にメッセージカードと共に「奇跡のひまわり」を設置した。奇跡のひまわりの由来と被災地への思いをカードに手書きし，プランターに添えて市役所前や「新城ラリー」等のイベント会場に展示した。また，防災の日に合わせて愛知県庁にも展示することができた。

(3)　地域のきずなを深めよう　−ちさとプレーパーク，小中連携あいさつ運動，住民運動会−

地域に出かけ，子供と大人が触れ合ってきずなを深めるために，以下の取組をした。

①　ちさとプレーパーク（小学生の自主的な屋外遊びをねらいとした子育て連絡協議会主催のイベント）の運営補助
②　地区住民運動会（体育振興会主催）へのボランティア参加及び新種目の立案と運営
③　生徒会執行部主催による小中連携あいさつ運動「ＴＨＥタッチ」

①は「外で自由な発想で遊ぶ」ことをねらいとした地域行事で，約３０人の中学生が自主的に参加した。遊びを通じて幼い子供と触れ合ったり，運営を通して大人から学んだりすることができた。②では，会議での子供の意見を基に「防災大声大会」を立案し，運営に携わった。子供目線で「誰もが楽しめる種目」として行った結果，地区ごとに団結して取り組む姿が見られた。アナウンスや吹奏楽部の演奏も行い，大勢の子供の参加により活気あふれる住民運動会になった。

【騒音測定器に向かって「火事だあ！」（防災大声大会）】

３　実践の成果や課題

- 「ミラクルコミュニティちさと会議」では，事前に連携小学校へ議題を伝え，小学生も意見をもって当日に臨んだ。「中学生の提案→グループ討議→全体討議」と段階を踏み，小中学生が活発に話し合ってアイデアを共有し，その後の活動の指針を明確にすることができた。
- 住民運動会では，小中学生が積極的に参加したことで大いに盛り上がり，あらゆる年代の住民が一緒に楽しく活動する貴重な機会となった。
- 本事業に取り組む中で，児童・生徒・大人が触れ合う機会が増え，地域に貢献する喜びを感じたり，地域への愛情をもったりする子供が増えた。
- ボランティアにやりがいを感じ，その後の活動にも意欲的に取り組む生徒がいる一方，ボランティアに関心の低い生徒も見受けられるなど，意識の差が見られる。